

# 2020年3月期中間決算概要

## 業績ハイライト

(単位:億円)

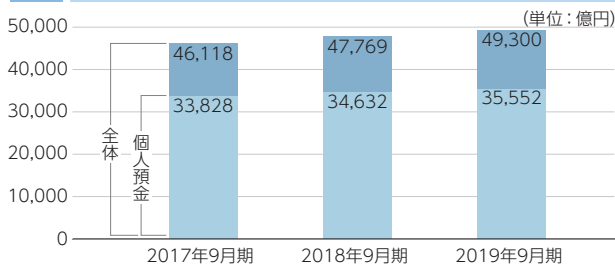
	2018年 9月期	2019年 9月期	前年同期比
業務粗利益	273	260	△12
資金利益	226	219	△6
役務取引等利益	35	38	2
その他業務利益	11	3	△7
[うち債券関係損益等]	[8]	[1]	[△7]
経費 (△)	202	211	8
実質業務純益	70	49	△20
一般貸倒引当金繰入額① (△)	△1	5	6
業務純益	71	44	△27
臨時損益	41	14	△27
うち株式関係損益	41	16	△24
うち償却債権取立益	2	2	△0
うち不良債権処理額② (△)	13	9	△4
うち貸倒引当金戻入益③	—	—	—
うち偶発損失引当金戻入益④	0	0	△0
経常利益	113	59	△54
特別損益	△0	47	47
うち減損損失 (△)	—	1	1
税引前中間純利益	113	106	△6
法人税等合計 (△)	32	28	△3
中間純利益	81	78	△2

与信コスト(①+②-③-④)	11	14	2
----------------	----	----	---

### ◆資金利益、その他業務利益の減少等により経常利益・中間純利益ともに減益

- ◇有価証券利息配当金は前年同期比213百万円増加しました。一方で、貸出利息は前年同期比231百万円減少、預金等利息をはじめとする資金調達費用が増加し、資金利益は同675百万円減少しました。
- ◇役務取引等利益は前年同期比239百万円増加、その他業務利益は同788百万円減少し、業務粗利益は同1,225百万円の減益となりました。
- ◇経費はシステム投資等による物件費の増加を主因として、全体で前年同期比839百万円増加しました。
- ◇臨時損益は、株式等関係損益が前年同期比2,419百万円減少したこと等により全体で同2,736百万円減少し、経常利益は同5,458百万円の減益となりました。一方、滋賀県外の不動産を売却したこと等により特別損益が前年同期比4,787百万円増加しました。また、法人税等合計は前年同期比396百万円減少しました。
- ◇これらの結果、中間純利益は7,828百万円となり前年同期比273百万円の減益となりました。

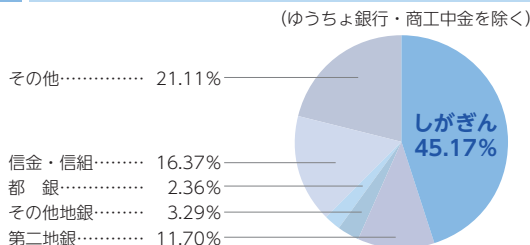
## 預金等(譲渡性預金含む) 期中平均残高



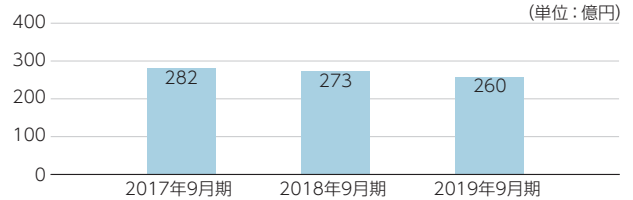
### 個人・法人ともに順調に増加

当期も地域の皆さまからのご支持を受けて、期中平均残高は前年同期比1,530億円増加し、4兆9,300億円と順調に推移しています。コアとなる個人預金の期中平均残高は3兆5,552億円で同919億円の増加となりました。

## 預金残高「滋賀県内シェア」(2019年3月末現在)

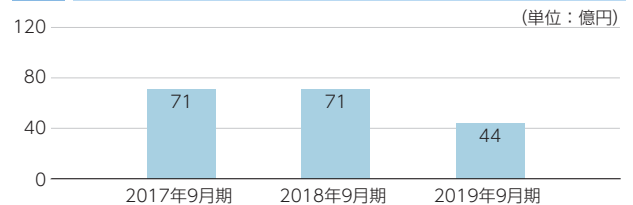


## 業務粗利益



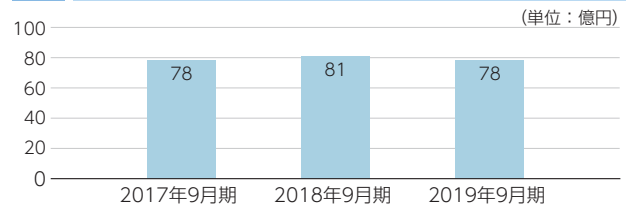
**用語解説** **業務粗利益** 銀行本来の業務(貸出業務、為替業務、有価証券運用など)から得た利益です。

## 業務純益



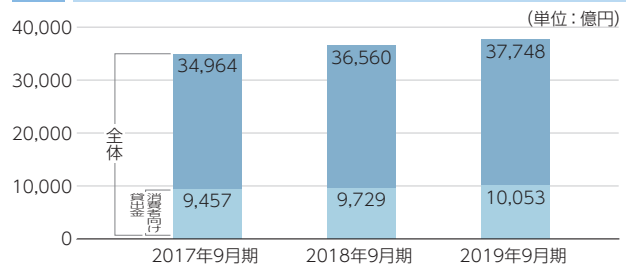
**用語解説** **業務純益** 一般企業でいう営業利益にあたります。  
 業務純益=業務粗利益-経費(人件費、物件費など)  
 - 一般貸倒引当金繰入額

## 中間純利益



**用語解説** **中間純利益** 経常利益から法人税や事業税等を差し引いた最終的な利益です。

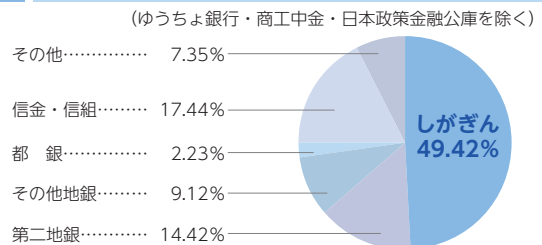
## 貸出金 期中平均残高



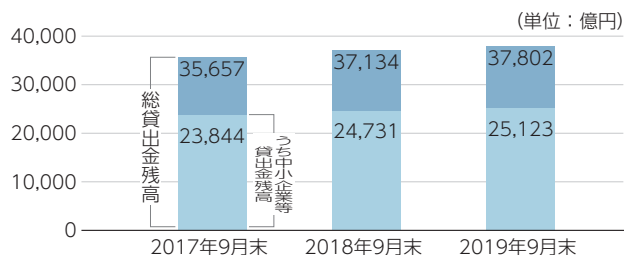
### 事業性・消費者向け・地方公共団体向け貸出ともに増加

当期も、事業性貸出・消費者向け貸出・地方公共団体向け貸出がそれぞれ増加し、期中平均残高は3兆7,748億円となりました。前年同期比1,187億円、3.24%の増加となりました。

## 貸出金残高「滋賀県内シェア」(2019年3月末現在)

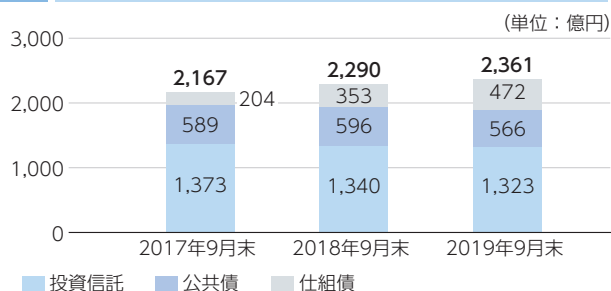


## 中小企業等貸出残高・先数

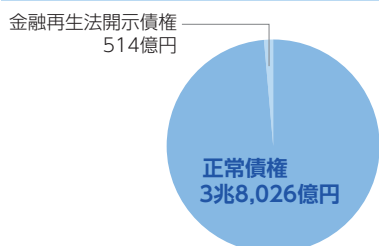


	2017年9月末	2018年9月末	2019年9月末
総貸出先数(先)	112,686	114,861	116,397
うち中小企業等貸出先数(先)	111,923	114,098	115,645

## 預り資産



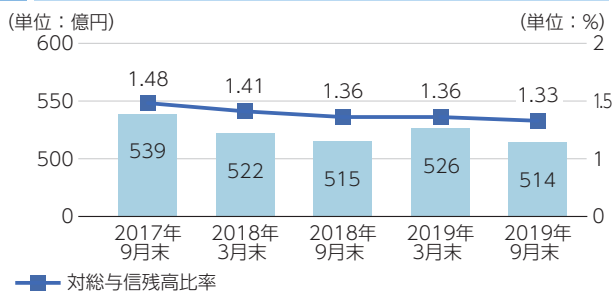
## 不良債権の状況



### 不良債権は1.33%

金融再生法に基づく開示債権の合計は前期末(2019年3月末)比11億円減少し514億円、総与信に占める比率は1.33%で同0.03%の低下となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は71.99%で同1.45%の低下となりました。

## 金融再生法開示債権



■ 対総与信残高比率

### 用語解説

**不良債権比率** 貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標のひとつとなります。

## 自己資本比率(連結)

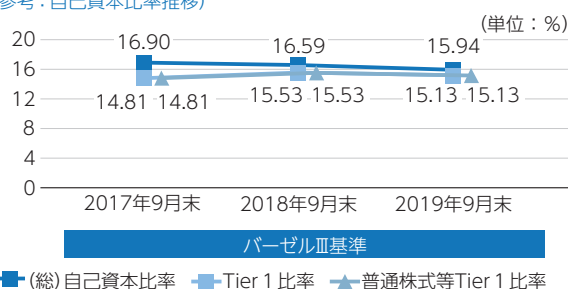
### 自己資本比率も国際統一基準を大きくクリア

自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を測る指標のひとつです。当行のように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準を満たしていなければなりません。当行の自己資本比率は15.94%(バーゼルⅢ基準、2019年9月末、連結ベース)と国際統一基準を大きくクリアしています。

### 2019年9月末

	実績	最低所要比率
連結 総自己資本比率	15.94%	8.0%以上
同 Tier1比率	15.13%	6.0%以上
同 普通株式等Tier1比率	15.13%	4.5%以上

(ご参考: 自己資本比率推移)



### 用語解説

**自己資本比率** 銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。海外に支店を有する国際統一基準では新たな自己資本比率規制(バーゼルⅢ)が2013年3月期決算から段階的に導入され、各最低所要比率を満たす必要があります。

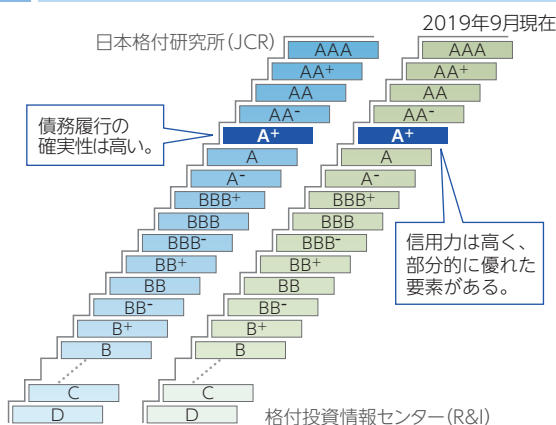
## 今後の見通し

単体	(単位: 百万円)	
	通期	2020年3月期予想
経常利益	12,000	12,000
当期純利益	12,000	12,000
業務純益	10,600	10,600

連結	(単位: 百万円)	
	通期	2020年3月期予想
経常利益	13,000	13,000
当期純利益	12,300	12,300

- 2020年3月期予想については、単体・連結とも2019年5月11日の公表値より変更していません。
- 連結業績予想における「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

## 格付



### 格付は安心の「A+」を確保

当行は、「日本格付研究所(JCR)」と「格付投資情報センター(R&I)」の2つの機関からそれぞれ「A+」の高い評価をいただいています。

### 用語解説

**格付** 銀行預金の元利金支払の確実性や安全性について、利害関係のない第三者が判断してその結果を簡潔な記号で表したものです。銀行を判断するうえで、安全性・信用力を客観的に評価した重要な指標のひとつです。